

西海市大島町「環境美化を考える会」から活動報告が届きました！

平成21年11月2日、西海市大島町で道路の清掃・美化活動が行われました。大島町では、『環境美化を考える会』（田口昭子代表）の皆さんが、道路の清掃や花植え、植木の剪定などの美化活動を定期的に行っています。この日は、『環境美化を考える会』のメンバー67名が集まり、歩道沿線に植えられたカイズカイブキの剪定や雑草の除草作業、空き缶回収等の清掃活動を行いました。カイズカイブキは、歩道まで伸びて生い繁り、歩行者の通行の邪魔になっていましたが、『環境美化を考える会』の皆さんのおかげで、とてもスッキリときれいになりました。



【長い距離を剪定してくださいました】



【歩道まで伸びていたカイズカイブキは剪定されスッキリとなりました】



【剪定した枝は粉碎機で細かくしました】

～今月の通り名～

◆佐世保地区

佐世保市の三ヶ町商店街組合では、11月13日に第4回「通り名」ワークショップを開催しました。

今回のワークショップでは、標識板のデザインについて検討しました。標識板については、「佐世保の景観にマッチしたデザインにすること」と「外国人にも分かりやすいこと」の2点に配慮して話し合いました。ワークショップでは、いくつかデザイン案を持ち寄り、比較しながら検討した結果、3つのデザインに絞られました。

11月20日には、標識板のデザインについて市民や外国人から意見を聞くために、米軍基地で「どの標識板が分かりやすいか」アンケートを実施しました。多くの人たちが立ち止まって、真剣に考えてくれました。今後は、アンケートの結果を踏まえて、標識板のデザインを決定します。



【デザインのプレゼンを行う参加者】



【WSでの意見を基にアンケートを実施】



【多くの方が立ち止まってアンケートに協力して下さいました】



【WSでの意見を基にアンケートを実施】

◆諫早地区

諫早市では11月4日に、3回目の「通り名を活かしたまちづくり」会議を開催しました。今回の会議では、具体的にどのような催しをやりたいのか、参加者の皆さんで意見を出し合いました。その結果、「毎年8月に開催される“祇園祭”と合わせて、大きなイベントをやりたい」とか「せっかくイベントをやるのなら、市外からも客を呼び込めるようなイベントにしたい」、「大きなイベントにするのなら、もっと様々な分野の人を会議のメンバーに入れよう」などの意見が出されました。

これを受けて、11月19日には道守や連合自治会長、大学教授などコアメンバーで小委員会を行いました。その中で、「8月の“祇園祭”までは期間が空くので、“祇園祭”を目標に市民に“通り名”を浸透させるよう、現メンバーでできるウォークラリーなどの小さなイベントを定期的に行っていく」という意見でまとまりました。次回の会議では、“祇園祭”との連携手法や小さなイベントの具体案を話し合っていきます。



【毎回大勢の方が参加しています】

◆雪浦地区

11月16日、雪浦公民館で第3回「通り名」ワークショップを開催しました。

前回までのワークショップで、16の通りに名前がついたので、今回のワークショップに合わせて、事務局の『雪浦ウィーク』実行委員会メンバーや各地区の区長さんから、地域住民への意見照会をして頂いていました。

今回のワークショップは、地域のご意見をもち寄っての話し合いとなりました。その結果、老人会からご意見のあった通りを一本改名し、他に新たに一本「通り名」を付けました。

次に、標識板について話し合いました。前回、「陶板が雪浦らしくていい」という意見が出ましたが、話し合いの結果「陶器は設置が難しく、台風などで剥がれたときに危険」という意見が挙がり、材料が簡単に手に入るというメリットと雪浦らしい手作り感を出すという理由で、木で作ることになりました。

11月27日には、標識板に掲載する番号（#で表す）を確認するために、『雪浦ウィーク』実行委員会のメンバーや地域の方のご協力の下、距離測定を実施しました。この番号は、通りの起点からの距離を表すもので、標識板とマップを組み合わせると現在地が分かるという非常に便利な道案内のしくみです。

この日は、小雨交じりのあいにくの天気でしたが、地域の方たちは「ここには昔、塩田で塩を作っていたんだ。」とか「この付近の田んぼは地盤が低く、大雨などで雪浦川が増水したときには川の水を田んぼに流し込み、遊水地にしていたんだ。この遊水地が雪浦の町を増水から守っていたんだ。」など地域の歴史を話しながら、楽しく「通り名」の距離測定を行いました。

標識板の設置箇所も決定し、距離も確定したので、これから標識板の作成に入っていきます。



【ワークショップのようす】



【距離を測る参加者】



【霧田気のある細い路地が多くあります】



【地域の方が多く参加して下さい、住民との調整もスムーズにできました】



【距離を測る参加者】

『ながさき見守りたいプロジェクト』経過報告

「ながさき見守りたいプロジェクト」とは、道守や地域ボランティア団体、地域住民などが主体となって、地域資源を掘り起こし、地域住民自らがその地域の郷土を愛し、コミュニティーを醸成させるとともに地域活性化を促し、交流人口の増加を試みる取り組みです。この「ながさき見守りたいプロジェクト」を、東長崎地区の長崎街道沿線、雲仙市千々石町・小浜町で実施しています。

◆長崎街道

長崎街道チームでは、「歩きたくなるような長崎街道、歩いて楽しい長崎街道」を目指して、マップ作りや景観整備に取り組んでいます。11月24日から3日間にわたり3つの部会を開催し、各部会の取り組みについて話し合いました。

●「ばんこ」部会

この部会では、地域住民や観光客がちょっと休憩して、お茶でも飲めるような『ばんこ』と呼ばれる長椅子を軒先に置いて、かつての長崎街道の雰囲気を出すすると同時に、体を休めてさらに歩いてもらおうという目的で『ばんこ』を製作・設置することになりました。

部会では、具体的なサイズや台数を検討しました。また、設置箇所については、このプロジェクトの主旨に賛同していただき、さらに設置後の管理までして下さる方を募集しようということになりました。『ばんこ』によって、雰囲気のある長崎街道がよみがえるよう地域のみなさんと協力して取り組んでいます。



【腰掛けてお茶でもできるようなばんこを作ります】

●「景観整備」部会

景観整備部会では、『NPO長崎街道松並復元会』が中心となって、長崎街道日見峠に松やクヌギ、モミジを植樹して、当時の雰囲気を蘇らせる取り組みを行うことになりました。



【植樹の場所を確認】

日見峠は、長崎街道最大の難所で、江戸時代には「西の箱根」と呼ばれていたそうです。この日見峠周辺には、江戸時代当時の雰囲気を漂わせる光景が今でも多く残っていますが、竹林や雑木等がいたる所に生い茂り、少しずつ荒れてきています。

人々に忘れ去られた長崎街道に少し手を加えて演出し、多くの人が歩いてみたくなるような街道をつくっていきたく考えています。



【趣のある街道の姿が今も残っています。写真右は、幅が1メートル程の山道です。ここをソウも通ったとは驚きです。】

●「マップ」部会

『ながさき見守りたいプロジェクト』を発足して、まず初めに挙げたのが「マップを作ろう」という意見でした。

“長崎街道”という言葉はよく耳にしますが、実際に長崎街道がどこを通っているのかについては、あまり知られていません。そこで、長崎街道のルートを示し、誰でも気軽に歩けるようなマップを作ることになりました。

マップは、5つのエリアに分けて作ることにし、長崎街道のルートの他、街道を通った歴史上の人物のエピソードや地域に伝えられた物語、史跡、街道から見える風景などを記載します。また、長崎街道を楽しみながら歩けるように、商



工会と連携しながら食事処やスイーツの情報も掲載することになりました。

【←江戸時代の雰囲気漂うマップを作っています】

◆千々石「千の物語プロジェクト」

千々石まちづくりチームは、11月23日に雲仙市千々石町のまちづくり拠点「竹添ハウス」で、『千々石 千の物語プロジェクト』を発足させました。このプロジェクトは、地域の子もたちやその保護者などに千々石の良さを知ってもらい、郷土に誇りを持ってもらうことを目的としています。このプロジェクトの前段として、9月に千々石のまちを歩き、千々石町が島原半島一の湧水量を誇ることや、水の恵みに感謝して地域の人々が大切に水神様を守っていること等を確認しました。

プロジェクトを発足したこの日は、地域の小学生とその保護者に「竹添ハウス」に来ていただき、皆さんでピザ焼き体験を行いました。ピザ試食後は千々石の良さや千々石が衰退している現状などを話し合い、地域コミュニティが促進されるとそれが観光につながり、ビジネスが創出され、定住人口の増加につながるなどが話し合われました。

子どもたちからは、「初めて自分たちでピザを作り、とても楽しかった」とか「地域の人たちとの交流を深めていきたい」などの意見が出されました。今後も子どもたちに千々石の郷土を楽しく学んでもらう取り組みを行っていきます。



【ピザ作り】

【石釜でピザを焼きました】

【子ども、大人 それぞれの目線から見た千々石について議論】

風景街道「日南海岸きらめきライン」視察調査・交流会

風景街道「ながさきサンセット・オーシャンロード」推進協議会は、平成21年11月5日～6日の2日間、風景街道「日南海岸きらめきライン」の皆様との交流会を宮崎県宮崎市と日南市で行いました。

風景街道交流会初日は、宮崎での風景街道の取り組みについて、日南海岸地域シーニックハイウェイ推進協議会事務局の谷越衣久子さん、及び宮崎大学工学部の吉武哲信准教授からお話を伺ったあと、様々な意見交換を行いました。「長崎での風景街道は、ルートが長く、ルート全体としての演出や協働作業などが難しく、宮崎ではどのように行っているのか」や「行政と大学、市民との連携をどのように行っているのか」などの意見が交わされました。

2日目は現地視察として、宮崎市青島にあるJR青島駅の民間団体による活用の状況や日南市油津にある夢見橋、飢肥城下町などを視察しました。油津の夢見橋では、夢見橋が市民の手によって作られた等のお話を伺ったほか、飢肥城下町で取り組んでいる食べ歩きクーポン券付きマップの取り組みなどを視察しました。ながさきサンセット・オーシャンロードの中でも城下町として栄えた平戸市からの参加者は、「是非、食べ歩きクーポン券付きマップの取り組みができないか検討したい」などの感想を持たれ、充実した視察を終えることができました。



【意見交換の様子】



【絶景「日南海岸きらめきライン」】



【市民によって作られた夢見橋】

～皆様の道守活動情報を募集しています～

『道守長崎通信』は皆様からの活動情報に支えられています。皆様の道守活動をお手本にしたり、参考にしたりして新たな活動が生まれます。新たな活動が、美しい道路づくり・地域づくり・人づくりに繋がります。皆様の活動に励まされ、新たな意欲も湧いてきます。どんな小さな事でも構いませんので、写真と簡単なコメントを添えて、下記住所まで情報をお寄せ下さい。

お問い合わせ
情報送付先

【道守長崎会議広報担当】国土交通省 九州地方整備局 長崎河川国道事務所 調査第二課 沼野・浦田
住所：〒851-0121 長崎市宿町 316 番地 1
TEL：095-839-9861 FAX：095-839-9648 E-mail：numano-t8910@qsr.mlit.go.jp

